

先進医療B 総括報告書に関する評価表（告示旧 21）

評価委員 主担当： 山口
副担当： 伊藤 技術専門委員：

先進医療 の名称	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん（洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。）
申請医療 機関の名称	近畿大学医学部附属病院
医療技術 の概要	<p>○根治切除可能な明らかな漿膜浸潤を伴う胃癌を対象として、周術期化学療法（TS-1、パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法）の有用性評価のための第Ⅲ相試験の準備として、同療法の安全性を検討する。</p> <p>○主要評価項目：治療完遂率</p> <p>○副次評価項目：安全性(有害事象ならびに術後合併症の発現頻度)、全生存期間（※）、奏効率</p> <p>（※）本試験では2年生存率にて評価を行うが、別途、5年生存率について観察研究を行う。</p> <p>○目標症例数：50例</p> <p>○試験期間：2014年8月1日～2019年1月31日（症例登録期間～2017年1月31日、観察期間最終プロトコール手術施行日より2年）</p>
医療技術 の試験結果	<p>○安全性の評価結果：本試験の主要評価項目は、本試験で用いるレジメンの安全性を治療完遂率をもって評価する事とし、目標とする閾値治療完遂率は信頼区間下側限界>60%と設定した。結果、51例のFAS対象例について治療完遂率95%信頼区間の下側限界は66.88%（片側P値=0.16<2.5）であったので、本試験治療は周術期化学療法として安全であると判断できる。</p> <p>○有効性評価結果：本レジメンの有効性は、本臨床試験の結果、引き続いて行われる比較第Ⅲ相試験により評価する。</p> <p>○結論：主要評価項目である治療完遂率の目標達成に加え、重篤な有害事象発現は全て既知であり最悪Gradeは3であること、通常の</p>

	有害事象発現についても未知の有害事象はなんら見られなかったこと等を鑑み、本試験治療は周術期化学療法として安全である、と結論する。
臨床研究 登録ID	UMIN000013109

主担当：山口構成員

有効性	<p>A. 従来の医療技術を用いるよりも、大幅に有効である。</p> <p>B. 従来の医療技術を用いるよりも、やや有効である。</p> <p>C. 従来の医療技術を用いるのと、同程度である。</p> <p>D. 従来の医療技術を用いるよりも、劣る。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> E. その他</p>
コメント欄：本先進医療では有効性は評価できない。	

安全性	<p>A. 問題なし。(ほとんど副作用、合併症なし)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B. あまり問題なし。(軽い副作用、合併症あり)</p> <p>C. 問題あり。(重い副作用、合併症が発生することあり)</p> <p>D. その他</p>
コメント欄： 腹腔内にチューブを留置することに伴う合併症もあるため、注意が必要。	

技術的成熟度	<p><input checked="" type="checkbox"/> A. 当該分野を専門とし、経験を積んだ医師又は医師の指導の下であれば実施できる。</p> <p>B. 当該分野を専門とし、数多くの経験を積んだ医師又は医師の指導の下であれば実施できる。</p> <p>C. 当該分野を専門とし、かなりの経験を積んだ医師を中心とした体制をとっていないと実施できない。</p> <p>D. その他</p>
コメント欄：	

総合的なコメント欄	本先進医療の目的である安全性の確認は達成できたもの と考える。また、有効性については評価できないが、副 次項目では有用性を示唆する結果が得られており、さら に実用化に向けて検討を進められたい。
-----------	---

薬事未承認の医薬品等 を伴う医療技術の場 合、薬事承認申請の効 率化に資するかどうか 等についての助言欄	安全性が評価できたことにより、本先進医療は薬事承認申 請の効率化に資するところがあったと考える。
--	---

副担当：伊藤構成員

有効性	<p>A. 従来 of 医療技術を用いるよりも、大幅に有効である。</p> <p>B. 従来 of 医療技術を用いるよりも、やや有効である。</p> <p>C. 従来 of 医療技術を用いるのと、同程度である。</p> <p>D. 従来 of 医療技術を用いるよりも、劣る。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> E. その他</p>
<p>コメント欄：</p> <p>本先進医療は、治療完遂率の評価を目的としたものであるため、有効性については、評価できない。副次的評価項目として評価された有効性については、比較第 III 相試験によって評価するとされており、有望な結果であったと推察される。</p>	

安全性	<p>A. 問題なし。(ほとんど副作用、合併症なし)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B. あまり問題なし。(軽い副作用、合併症あり)</p> <p>C. 問題あり。(重い副作用、合併症が発生することあり)</p> <p>D. その他</p>
<p>コメント欄：</p> <p>抗癌剤による治療であるため当然副作用が見られるものの、既知のものであり、問題はないと考えられる。</p>	

技術的成熟度	<p>A. 当該分野を専門とし、経験を積んだ医師又は医師の指導の下であれば実施できる。</p> <p>B. 当該分野を専門とし、数多くの経験を積んだ医師又は医師の指導の下であれば実施できる。</p> <p>C. 当該分野を専門とし、かなりの経験を積んだ医師を中心とした体制をとっていないと実施できない。</p> <p>D. その他</p>
コメント欄： 技術的には難しい点はないように思われる。	